

## 2009年度 第2回常任幹事会議事録

●日時  
2009年9月5日(土)  
15:00～17:00

●場所  
阿佐ヶ谷美術専門学校内

●出席者  
秋元圭一〔会長〕  
日野高〔副会長〕  
甲斐光省〔副会長〕  
三好耕之〔常任〕  
西田一成〔常任〕  
藤川正美〔常任〕  
渡部征明〔常任〕  
大村政幸〔常任〕  
松岡和彦〔常任〕  
白石龍子〔常任〕  
小山弘〔常任〕  
勝山昌幸〔常任〕  
富澤和治〔常任〕  
土橋洋一〔会員〕  
永吉昭浩〔会員〕  
小山優子〔会員〕

●委任欠席(カッコ内→代理人)  
浜村圭一(西田)  
大野美菜子

常任出席者 13名  
委任欠席者 2名  
定足数成立

●議事進行  
議長・進行:松岡和彦

●議事録  
書記:永吉昭浩  
校正・制作・文責:  
永吉昭浩・大村政幸・秋元圭一

## ■議題

1. 第5～7回アサビブリッジセミナーについて
2. その他・意見交換会

## 議題1 第5～7回アサビブリッジセミナーについて

先に、同窓会ニュースの進行状況について

A4三折りサイズの変形。詳細は別紙参照。外面1にタイトルと、会長挨拶。中面に会務報告。アサビ新聞を同封して発送するため9月24日入稿、9月30日仕上り、10月頭発送。来週末までに原稿を仕上げる。アサビブリッジセミナーの入稿状況。名簿管理から、同窓会ニュースは会員5,005名の中で住所がわからない人がいるので、実際には3,210名。同窓会ニュースのコストはいくらか? 「印刷10万、発送費が30万円」。戻りが1割。卒業して引越す人が多い。

## アサビブリッジセミナーについて

西田氏が説明。10月25日に第5回セミナー。12月19日に第6回セミナー。2月20日に第7回セミナー。矢野さんは、小山さんの司会で進行したいとの希望。林さんは、松岡さんの司会進行を希望。アサビフェスタでの会場がまだ未定。9月24日の入稿に間に合うかわからない。A3の大きさでポスターを作成、学校内に掲示する。会長から「セミナーの前にもう一度会議を開いた方がよいのでは。という話を、大村氏から聞いている」。西田氏「9月25日に会議を開く予定。事前に一度開きたいのであれば開くべき。浜村さんから広報に話かかっているはず」。松岡氏「その話は聞いていない」。広報の方に話がいっていないので、浜村さんにどうなっているのかというメールをした。セミナーが終わった後、この資産(セミナーを録画したビデオなど)をどうするか、という方向性が見えない。せっかくのコンテンツなので、有効活用したい。ダイジェスト版のようにしたい。今まで学園祭の講演は、テキストデータにしてアサビのホームページに載せている。同じように同窓会のホームページにセミナーのテキストデータを載せてはどうか。西田氏「浜村さんに伝えておく」今回のセミナー委員は、西田氏、浜村氏、松岡氏、日野氏「大村さんが記録しているが、ダイジェストを作るのは大変」などの意見が出た。

## 議題2 その他、意見交換会

## 引き続きアサビブリッジセミナーについて

渡部氏「アサビフェスタの中で行う今回の会場に関しては?」西田氏「矢野さんの時は、父兄会があるので、会場を確保するのが厳しい?そのためセミナーが終わった後の懇親会を開けないこともあるが当日のフェスタの状況によっては同じ会場を使える可能性もある。松岡氏「フェスタの会場を使うのはあまり歓迎できない。フェスタの後夜祭のこともあるので会場でやるのは難しいと思う」西田氏「セミナーは元々在校生支援のため」会長「学生がたくさんいればやってもかまわないと思うが」松岡氏「学園祭が5時で終了。後夜祭も7時で終了するので懇親会はむずかしい」当日の状況次第で、懇親会は別の会場を。フェスタの状況次第で臨機応変に対処する。

会長「今年度は、来年の3月に選挙がある。今までの選挙方法を踏襲するが、何か意見があれば」松岡氏「常任幹事に選出されても、常任幹事に積極的に参加しない幹事も多い」会長「被選挙権は前回から会員の自薦、他薦も含める方法を取っているが具体例はまだない」日野氏「同窓生が、選挙の存在を知らない。幹事が被選挙権を持っていること、選出方法をアナウンスする必要がある」西田氏「ある程度の年齢の幹事ははずして、若い幹事を選ぶようにする。常任幹事が推薦する制度を設ける。会計監査は会議に出てほしい。逆に会計監査は長老クラスにやってほしい」甲斐氏「今、幹事じゃない人についてのことだけを決めたい」松岡氏「常任幹事というのは、選挙で選ばれることが前提。2年おきに選挙がある。選挙されていないのに常任幹事になるのは問題があるかもしれない」会長「熱意のある人は選挙人名簿に載せる」日野氏「一生懸命手伝ってくれる人を推薦して名簿に登録しても、認知度が低ければ当選する可能性も低いが推薦枠は必要かもしれない。幹事会の票で常任幹事が決まるので、結局オーケー」渡部氏「同窓会ニュースを出す時期に、常任幹事の推薦を広報する」日野氏「選挙をする時期をアナウンスする必要がある」土橋氏「会長推薦枠を作る」日野氏「僕は反対ではない。ただ、会員に理解を求める場が必要」西田氏「常任幹事会推薦枠というのはどうも」会長「次の選挙までには明瞭にしておく。それまでは会員参加ということで手伝ってもらおう。」松岡氏「選挙管理委員会?」会長「前回のメンバーで。同窓会ニュースに常任幹事選出選挙のことを載せる」松岡氏「ウェブにも載せませう」会長「今回の選挙で、常任幹事会が承認した会員も被選挙人になれることをアナウンスする」松岡氏「自薦の人の連絡方法を定める」日野氏「今回の選挙では、会長枠などは設けない?」会長「次回の選挙では設けない。今回の同窓会ニュースで次回の選挙の推薦枠のことをアナウンスする」土橋氏「会長枠を決めた方がいい」松岡氏「必要に応じて決めていった方がいい」渡部氏「卒業時に幹事を選ぶ方法、学生の方から幹事になるのが一つ。幹事から常任幹事になるのが一つ。それぞれ問題がある。学生から選ぶのにはいろいろ無理がある。卒業してから環境が変わるので、積極的に参加できるかどうかかわからない。推薦枠という枠を積極的に活用したい。アサビブリッジに出席してくれる人にアプローチする。そうしないと幹事会のリフレッシュにならない」西田氏「推薦というのはいいかもかもしれないが、自分たちの知らない人もいるので、選挙になると悪用される場合がある。人物を知らないで推薦できない」渡部氏「会員が来てくれることは奇跡なこと。セミナーに毎回きてくれる人に、アプローチする方法を考えていきたい」松岡氏「勧誘する」会長「人となりかわからなければ根拠がわからないので、よく知る方法を考えるべき」甲斐氏「会長が推薦文を作る」会長「幹事会にでていなくても、協力的な会員がいれば推薦の対象となる」藤川氏「外から見ると大した問題ではないのでは。幹事の仕事は同期の会員に連絡を取ること」松岡氏「たとえば、同じ世代が同窓会のやることに興味を持つことってありますか?」藤川氏「同窓会ニュースをみると他の人の近況がわかるので有効だ。同窓生が活躍していることは非常に励みになる」日野氏「次回の選挙を含め、常任幹事会に若い人を参加させることを考えていきたい」会長「20代はなかなか参加できないかもしれないが、30代以降になれば同窓会への意識が高くなることを期待して、様々な情報を発信していきたい」西田氏「60以上はあまり学校に関心を持たなくなってくる。高齢の幹事を選ぶ必要はないのでは」日野氏「年齢で決めるのは幹事会としてはいかなものか」西田氏「高齢の会員は亡くなっている可能性もある」日野氏「目的が違う気がする」土橋氏「生活習慣病など、若い人が知らないことが多い。会合だけではなくいろいろな話ができる場として活用しては」松岡氏「年代は違うが、卒業生として楽しくやっていった方がいい」日野氏「話の発端は、若い会員の参加を促すこと。次回の選挙までには推薦枠をアナウンスする。どうやって若い人の参加を促すかを考える。専門のチームを作って考えた方がいい。だからこそ議事録が必要。誰がそれらの問題を考えていくのか、ということを考える。」土橋氏「最近議事録がアップされていない」大村氏「一年分たまってます」日野氏「議事録を他の人に手伝ってもらってはどうか」西田氏「大村さんには忙しかったら、他の人に手伝ってもらった方がいい。議事録を見たくても見られないのは、いかなものか。ちゃんとしてもらわなくてはいけない」松岡氏「ほかに丸投げしては?」日野氏「今のデータをそのままもらえれば」松岡氏「今までの議事録を今月中にアップしてもらいたい」大村氏「テキストにはなっているものもある」会長「もし必要であればいろんな人に手伝ってもらうことになる」土橋氏「今後は黒板などに書いた方が後で議事録を作成するのによいのでは?」

まとめとして、松岡氏「常任幹事の選出方法に、自薦、他薦も含めることを同窓会ニュースに載せる。セミナーは、今、3回決まっているが第5回の会場がまだ決まっていない。9月26日の常任幹事会を開催するのか?」とし、会長が「セミナーの準備は問題ないようなので26日の常任幹事会はなしにする。セミナーにはなるべく沢山の人の人に参加してほしい」と締めた。

今回は、2009年11月28日(土)15:00～17:00ということを確認して、会議は閉会した。